

下にあるのは、がんが骨へ転移した患者さんの声です。このように「骨への転移」と診断され、体の痛みや「今後どのようにになってしまうのか」と大きな不安を抱えながら、がんと向き合わなければならない場合があります。痛みや不安などの心の負担は、一人ではなかなか解決方法を見つけることができません。一人で我慢をするのではなく、まずは医療者に相談してください。相談する場所がわからない場合は、地域のがん診療連携拠点病院等のがん相談支援センターに相談しても良いでしょう。

骨転移が判明した時は3ヵ月以上落ち込み苦しかった。最後は寝たきりになるのでは、いたみがあるのではと怖い。

腰椎と脊椎に骨転移が認められ医師から手術治療不能と告げられ、余命を考えたときこれからの生活について悩んだ。

少し胸や背中が痛くなったりすると転移しているのかなという思いが脳裏をよぎり、再発の不安はこれからもずっと続くと思う。

イレッサを内服しているが、骨に転移があり、右脇腹のほうに痛みがある。このままの状態ですでに生きていられるのか悩む。

骨転移が判明した時は、3ヵ月ぐらい落ち込みました。現在も寝たきりになると痛みが恐いのですが、精神的には大変落ち着いています。人間それなりに順応するんだと思いました。死はある程度、覚悟ができていますつもりですが、ぜひ痛みだけは薬で取り除いて欲しいと願います。

